



社会教育

「スイトピア子どもクラブ」で楽しく学んでいます！

スイトピア子どもクラブは、小学3年生から6年生までを対象に、第2・第4土曜日にスイトピアセンターなどで、理科系や文科系の様々なテーマで開講しているクラブです。

どのクラブも、専門知識を持つ教師や大学教授などの講師が、楽しみながら学べる内容を考えて実施しており、子どもたちは地域や学校を越えて仲間をつくり、毎月楽しく参加しています。

令和7年度の受講生募集は、4月頃に広報おがきに掲載するほか、学校を通して、対象学年の児童にチラシを配布する予定です。

令和6年度の活動内容

No.	クラブ名	活動内容
1	発明クラブ1	キットを使用しながら、紙・木工作などの基礎を学ぶ
2	発明クラブ2	自動車や発電機を作りながら、電子工作の基礎を学ぶ
3	造形クラブ	砂絵やカード作りなど、学校で学ばないことにチャレンジ
4	科学クラブ1	工作や実験を通して、身の回りの不思議を体験
5	科学クラブ2	いろいろな科学工作・実験を通じて、楽しさを体験
6	化学クラブ	おもしろい化学実験を体験



スイトピア子どもクラブ活動風景

No.	クラブ名	活動内容
7	電気・電子工作クラブ	ラジオを作製しながら、ハンダゴテの基礎を学ぶ
8	自然クラブ	野外活動で、鳥・魚・昆虫など自然の不思議を学ぶ
9	チャレンジクラブ	ケーキなどのお菓子を楽しく作る
10	手作りクラブ	簡単にできる編み物や、おやつ作り
11	ミクロ探検クラブ	シングルレンズ顕微鏡を作って、昆虫や植物を観察
12	SDGs未来創造クラブ	マールクレヨンやハンカチ染めなどを通してSDGsを学ぶ

お問い合わせ：社会教育スポーツ課(TEL 47-8039)



図書館

図書館で「水の都大垣」の魅力を見つけてみませんか

私たちの住む大垣は、古くから「水の都」といわれています。全国でも有数の自噴帯に位置しており、良質で豊富な地下水が、こんこんと湧き出る井戸が市内に数多くあるからです。豊かな水の恵みにより清らかな流れとなり、川ではハリヨが棲みホタルが飛び交う風景や、川に囲まれた地形であることから舟運が盛んであった川湊跡、輪中の風景などを見ることができます。

図書館では2階北側通路において、水の都大垣にまつわる歴史と文化を紹介するパネルや、水都大垣、水に関する本の展示をしており、湧き水のしくみや、市内の湧き水マップ、川湊をテーマとした古写真パネルを紹介しています。

夏休み期間には、1階児童室前に、「子ども向け水の都大垣学習コーナー」を設置しました。月ごとに「水まんじゅう」や「水都まつり」などのテーマを設けて、水にまつわる夏休みの調べ学習に役立つ図書や「調べ案内」を展示しました。来年度も開催する予定です。

「水の都大垣」の魅力を見つけてみませんか。

お問い合わせ：大垣市立図書館(TEL 78-2622)



水の都大垣学習コーナー

本の紹介

水都「大垣」の水と食、水都「大垣」が育む命をはじめ、大垣の歴史とその魅力を知ることができる一冊です。

タイトル：『歴史と文化の交差点 新 大垣を歩く』
著 者：鈴木隆雄
発 行：大垣市文化財保護協会



みんなが学び交わり成長する 文教のまち大垣

大垣市教育委員会だより

はぐくみ

vol.28

発刊
令和7年
2月

義務教育学校について、教員の意見を聞きました

11月27日(水)に教育委員が上石津学園を訪問し、授業見学及び「義務教育学校としての特色」について教員との意見交換を行いました。

教員からは、「『チーム担任制』については、非常に取り組みやすく、1つの学級を3～5人体制で運営でき、何かあっても相談できる。精神的な負担も軽減されている。」や、「中学生が集中してテストを受けている時に、低学年の声が聞こえてくることがある。実力テスト等では様々な配慮をしているが、なかなか難しい。」などの意見が出されました。

教育委員からは、「開校から1年が経過する時期には、児童生徒や保護者の方々がどう感じているか把握するためにもアンケート等をしていただけると良い。」「地域の方々との交流や体験学習を活発に行っている。上石津だからできること、義務教育学校だからできること。この2つが合わさった、他の地区にないようなことをやっていただき、市内に広めてもらいたい。」などの意見がありました。

今後も、学校訪問を通して教育現場の状況等を把握し、教育行政の充実に努めてまいります。



休日の部活動地域移行について、生徒の意見を聞きました



12月18日(水)に教育委員が江並中学校を訪問し、授業見学及び「休日の部活動地域移行」について生徒の意見を聞きました。

移行後の「地域クラブ」ですでに活動を行っている生徒からは、「地域移行によって部活動がより楽しくなった。コーチの指導により個人の技術も向上し、チームプレイなど上達してきている。以前より勝ちたいという思いが強くなり、たくさん声を出し熱心に練習している。」という意見がありました。

教育委員からの「部活動が減少して、他の学校と一緒に活動を行う合同チームになった時、楽しくできそうか。」との質問に対し、生徒からは「お互いに自分からコミュニケーションをとっているので仲間が増えても楽しくできる。」という意見が出されました。また「他校に出向いて活動する状況になった時、抵抗はあるか。」との質問に対し、「少しあるが、練習すれば上達していくので行きたい。」という意見が出されました。

今後もさまざまな意見を聞きながら、地域移行を推進してまいります。



部活動地域移行

持続可能な「地域クラブ」への移行を目指しています！

市では、将来にわたって子どもたちがスポーツ・文化芸術活動に親しむ機会を確保することができるように、休日の部活動の受け皿となる新たな「地域クラブ」の設立を目指しています。



部活動地域移行について

● 令和6年度 実証事業実施団体 (合意形成できた部活動から順次、実証事業を実施)

No.	学 校	部活動	地域クラブ	活動場所	活動日
1	星和中	サッカー	→ 星和FC	星和中、大垣北高	水、木、土
2	星和中	剣道	→ 星桜会(星和剣道クラブ)	星和中	金、土又は日
3	星和中	なぎなた	→ 尚武会なぎなたクラブ	大垣商業高	水、土
4	東中	サッカー	→ 大垣東FC	東中	火、木、金、土又は日
5	興文中、南中、西中、東中	軟式野球	→ 大垣中央野球クラブ	南中、興文中	土又は日
6	東中、星和中	軟式野球	→ 大垣東部野球クラブ	東中、江並中	土又は日
7	北中、星和中	軟式野球	→ 大垣北部野球クラブ	北中、星和中	土又は日
8	西部中	バレーボール(男子)	→ 西部バレーボールクラブ	西部中	土又は日
9	興文中、北中	ハンドボール(女子)	→ S Violet H.C	北中	水、金、土
10	西中、江並中	ハンドボール(女子)	→ Spring Handball Club 江並&西	江並中、西中	火、木、金、日

地域クラブは、次の基本理念をもとに、運営されます。

基本理念

(大垣市部活動地域移行基本構想より)

- ・ 競技志向のみに偏ることなく、スポーツ・文化芸術活動に親しむものであること。
- ・ 多様な機会を確保し、豊かに生きる資質・能力を育むものであること。

方 針

- ・ 休日の部活動について、合意形成された部活動ごとに、「地域クラブ活動」に移行を行います。令和7年度末までの移行完了を目標としています。
- ・ 令和7年度末までに移行できない場合は、部活動(または保護者クラブでの活動)を継続します。

● 市の地域クラブの特徴

- ・ 地域クラブは、中学校部活動に在籍する生徒全員を受入れて活動しますので、これまで部活動を行ってきた仲間と一緒に活動することができます。
- ・ 資格を保有する指導者がいるため、専門的な指導を受けることができます。
- ・ 地域クラブは、学校のグラウンドや体育館を優先的に利用することができます。



説明動画

市のホームページで、地域移行の説明動画をご覧くださいことができます。

地域クラブ活動での指導者登録にご協力をお願いします！

令和7年4月以降、新たな地域クラブが加わる予定です。生徒の皆さんが、部活動と同じように安心して活動できる環境をつくっていきます。

地域移行の推進にあたっては、スポーツ・文化芸術活動に関わる指導者の皆様をはじめ、地域の皆様のお力が必要であると考えております。地域の皆様に支えていただきながら、引き続き推進していきます。

ご協力をお願いいたします。

お問い合わせ：社会教育スポーツ課(TEL 47-8039)



指導者の登録について



学 校

インターネットを活用した不登校支援の新たな取り組み

本市では、不登校対策事業の一環として、今年度4月より適応指導教室「とまり木教室」を設置・運営してきました。9月からは更なる支援の充実のため、オンライン上の仮想空間「サイトスクエア」を活用した実証事業を開始しました。

この取り組みは、様々な事情により登校が困難な児童生徒の皆さんに、新しい形で交流や学習の機会を提供することを目的としており、今年度は、市内中学校3校をモデル校に実証事業を実施しています。安全で安心な環境の中で、クイズやしりとりなど参加者が無理なく取り組める工夫をしており、参加者からは「楽しく活動できた」「もっと難しい問題に挑戦したい」「旅行体験でハワイに行ってみたい」といった感想が寄せられています。

来年度は、より多くの皆さんに参加していただけるよう、個別に学ぶことができるようなブースの設置を検討しており、中学生は対象を全校に拡充し、週1日、2時間程度実施するほか、小学校高学年の実証事業も実施予定です。参加については、来年度配付するチラシのQRコードから簡単に申し込み可能です。

今後も、一人ひとりの子どもたちに寄り添った支援を継続してまいります。



お問い合わせ：教育総合研究所 情報・研修センター (TEL 77-2521)



文 化

教育委員が奥の細道むすびの地記念館を視察しました

10月23日(水)、教育委員が、奥の細道むすびの地記念館を視察し、「蛤のふたみに別行秋ぞ」の句を記した芭蕉直筆の懐紙の説明を受けました(【写真1】)。

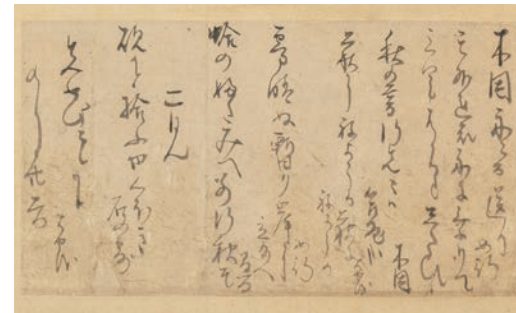
この句は、芭蕉が元禄7年(1694)に仕上げた俳諧紀行『奥の細道』において、同2年(1689)9月6日、大垣を立ち伊勢へと向かう場面で詠まれており、同紀行のむすびの句として置かれています。大垣を立て16日後に書かれた芭蕉の手紙には、中七が「ふたみへ別」の句形で記されており、むすびの句の初案は「ふたみへ」であったことがわかります(【写真2】)。

その後、それを、「ふたみに」に改めたことで、これから向かう伊勢の二見が浦だけでなく、見送りの人々との別れがたい気持ちを蛤の蓋と身にたとえて表現したことを明確にする効果をもたらしています。直筆の懐紙は、芭蕉が旅を終えたのちに句を改めたことを示すものです。

今回は、『奥の細道』のむすびの句が「ふたみへ」から「ふたみに」に改められた理由を考えさせられるとともに、新たに大垣市で収蔵した芭蕉真筆の価値を認識する機会となりました。



【写真1】芭蕉筆「蛤の」句懐紙(奥の細道むすびの地記念館蔵)



【写真2】元禄2年9月22日付杉風(推定)宛芭蕉書簡(個人蔵)